

**HAUSER, M. D. *MORAL MINDS.***  
**CH. 3 GRAMMARS OF**  
**VIOLENCE**  
**PP. 111-121**

科学史・科学哲学研究室 博士1年  
筒井 晴香

# 第3章の概要 (pp.111-112)

- 意図的に、ないし他の目的達成のために引き起こされる死に関する近年の統計データ
  - イラク戦争、自殺、銃殺事件、honor killing...
- 暴力禁止の道德原則は、文化によって強化/緩和されている？
  - セマイ族、ヤノマモ族

→ 許される危害permissible harmの判断の基礎となる普遍原則はあるか

- 暴力禁止の例外に関わる各文化特有のパラメータ
- 法・宗教システムの介入と、直観との衝突



# 許される殺害 Permissible Killing

(pp.112-121)



# 例：聖書 (pp.112-113)

- 十戒の一つ:「殺すなかれ」
- ヘブライ語 ”ratsach” の解釈 ...「殺人」
  - 食べるための動物殺しを許容
- 殺人の中でも許容される例もある
  - 女性の姦通、他の神への信仰、異邦人、魔女
  - 伝統的には集団内/外の差とされてきたが、集団内での殺人が許容される例も(中絶、嬰兒殺し)

# 許される危害に関する直観 (p.113)

- 暴力のきっかけとなるもの、暴力を制御するものを探求する上で、暴力の心理学、特に他人に危害を加えてよい場合に関わる我々の直観を理解することが必要
  - 許される暴力に関する我々の判断、文化間での差の程度、社会によるコントロールを試みる上での困難の下にある論理が明らかに

# トロリー問題 (p.113-)

- 哲学者フィリッパ・フットが提唱
- フットの目的: 殺すkillことと死なせるletting dieことを区別する手がかりを得る
  - 多くの生命倫理上の問題の核心にある区別  
(例 安楽死、中絶)
- より一般的な目的: 我々の(直観的)道徳判断と様々な道徳的原則・基準との関係
  - (行為全体としての善さ、結果の良し悪し、正しい/悪い行為のカテゴリー、行為か不作為か、予測される結果か意図的結果か)

# 1. 傍観者デニーズ

- トロリーが5人の歩行者に向かって暴走(運転手は気絶)
- デニーズはスイッチを入れることで、トロリーを別の線路に導くことができる
- 他に5人を助ける方法はない
- だが、別の線路には1人の人がいる

# 1. 傍観者デニース

- 直観: スイッチを入れることは道徳的に許容される
  - スイッチを入れても入れなくても最低1人は死ぬ
  - 目的は1人を殺すことでなく、5人を助けること  
(別の線路に誰もいなかった場合は、スイッチを入れることが義務に)
  - 功利主義的にはスイッチを押すべき



## 2. 傍観者フランク

- トロリーが5人の歩行者に向かって暴走(運転手は気絶)
- フランクは線路の上の歩道橋にいる
- フランクは隣にいる体の大きな人を線路に突き落とすことで、トロリーを止めることができる
- 他に5人を助ける方法はない

## 2. 傍観者フランク

- 直観：突き落としてはいけない

→なぜ？1.との違いは？

- 大きな人はトロリーの暴走という出来事に関わっていない傍観者なので、巻き込んではいけない？

→暴走事故に責任がないという点は、1.で別の線路にいた人も同じ

- カント的定言命法（人を手段として扱ってはいけない）？
- スイッチより突き落とすほうが感情に訴える？
- 予測された結果か意図された手段か？

## 2. 傍観者フランク

- 1. との相違点は多数

→さらに条件を変えた事例とも比較することで、  
どのような差異が重要なのかを明らかに

### 3. 傍観者ネッド

- トロリーが5人の歩行者に向かって暴走（運転手は気絶）
- ネッドはスイッチを入れることで、トロリーを迂回させることができる
- 迂回した先には体の大きな人がいて、彼にぶつかればトロリーの速度が弱まり、その間に5人は逃げることができる
- だがこの場合、体の大きな人は死んでしまう
- 他に5人を助ける方法はない

## 4. 傍観者オスカー

- トロリーが5人の歩行者に向かって暴走(運転手は気絶)
- オスカーはスイッチを入れることで、トロリーを迂回させることができる
- 迂回した先には大きな障害物があって、それにぶつかればトロリーの速度が弱まり、その間に5人は逃げることができる
- だがこの場合、障害物の前にいる1人の人が死んでしまう
- 他に5人を助ける方法はない

# 3. ネット/ 4. オスカー

- 直観: スイッチを入れることは  
ネット...許容されない オスカー...許容される
  - ネット...意図的な危害/オスカー...予測される副次的結果

だが、この直観は適切か？

- ネットもデニーズもトロリーの方向を変えており、その点はオスカーも同じ
- フランクとネットは何が違う？ → 意図的手段か予測された結果か

# 各事例の主要な違い

事例	行為	行為の感情的性質	ネガティブな結果は意図／予測	ネガティブな結果	ポジティブな結果
1. デニーズ	スイッチ	どちらでもない／非人格的	予測	1人を殺す	5人を助ける
2. フランク	突き落とす	ネガティブ／人格的	意図	1人を殺す	5人を助ける
3. ネット	スイッチ	どちらでもない／非人格的	意図	1人を殺す	5人を助ける
4. オスカー	スイッチ	どちらでもない／非人格的	予測	1人を殺す	5人を助ける

- より大きな善を実現しようとしたとき、危害が  
意図された手段...許容されない  
予測された結果...許容される
- これは完全な分析ではない
- ポイントは、道徳的ジレンマにおける見かけ  
上些細な変更が、我々の直観を大きく変えう  
るということ



- 以上では、ハウザー(そして恐らく多くの哲学者達)の持つ直観と、様々な事例に関する熟考を通して得られた諸原則の分析に基づいて、4つの事例に対しコメントしてきた
- 目的は、人間の本性としての道徳的直観の本質を説明する原則を見つけること
- これはロールズの生物の性格付けに沿っている

- だが、人間の本性を明らかにする上では、以上の分析には二つの欠陥がある
  - 道徳的判断、正当化が、西洋文化で高等教育を受けて育った30歳以上の人間の熟慮に基づいて初めて出てきたもの
    - 様々な年代、教育、性別、文化的背景etc.を持つ人の判断を参照すべき
  - 道徳的原則の常識的な記述が我々の直観と一致しているとは限らない。我々の道徳的直観の背後にあるものを捉えるには、遥かに抽象的な概念が必要ということもありうる(ロールズ)



To be Continued...

